

VII - 1

仙台城址地域の自然環境と歴史的環境の保全について

東北工業大学 正員 松山正将 東北工業大学 菊地清文
同 上 花渕健一 同 上 佐伯吉勝

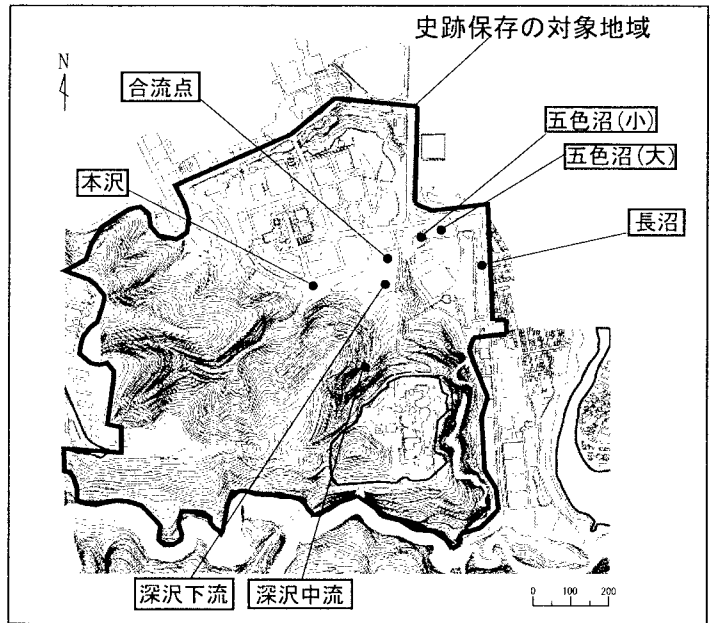
1:はじめに

仙台城とは大きく本丸と二の丸を総称したものであり、本丸は初代伊達政宗が1600(慶長5)年から1610(慶長15)年にかけて青葉山丘陵稜付近に築いた城であり、二の丸は二代藩主伊達忠宗が青葉山麓に太平の世に対応させた居城として、1638(寛永15)年から翌年にかけて築いた城である。

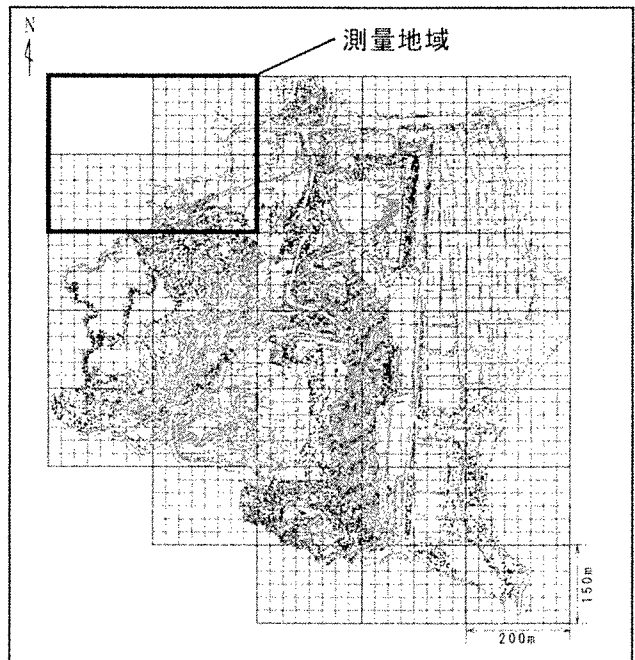
この仙台城の最大の特徴は、青葉山丘陵の自然地形を巧みに利用した防備性と、水源のほぼ全てを城の西方に広がる森林一帯の湧水と地下水にもとめ、その調整池的役割をもたせるため二の丸に中嶋池と裏池を配し、余水を三の丸や追廻の侍屋敷へと段階的に水利用を行っていた灌漑技術を上げる事ができる。

新聞報道によれば、仙台城址の一部が今年の夏に国の史蹟として指定される見通しである。仙台城の特徴を若干補強すれば、山城の性格と平城の性格を有していることと、本丸の規模が全国的にみても最大級に近いことである。

本報告は、著者らが1990年から継続している仙台城址地域の自然環境と歴史的環境保全に関する現況調査から、水環境調査に関す



図一 1 史跡保存の対象地域

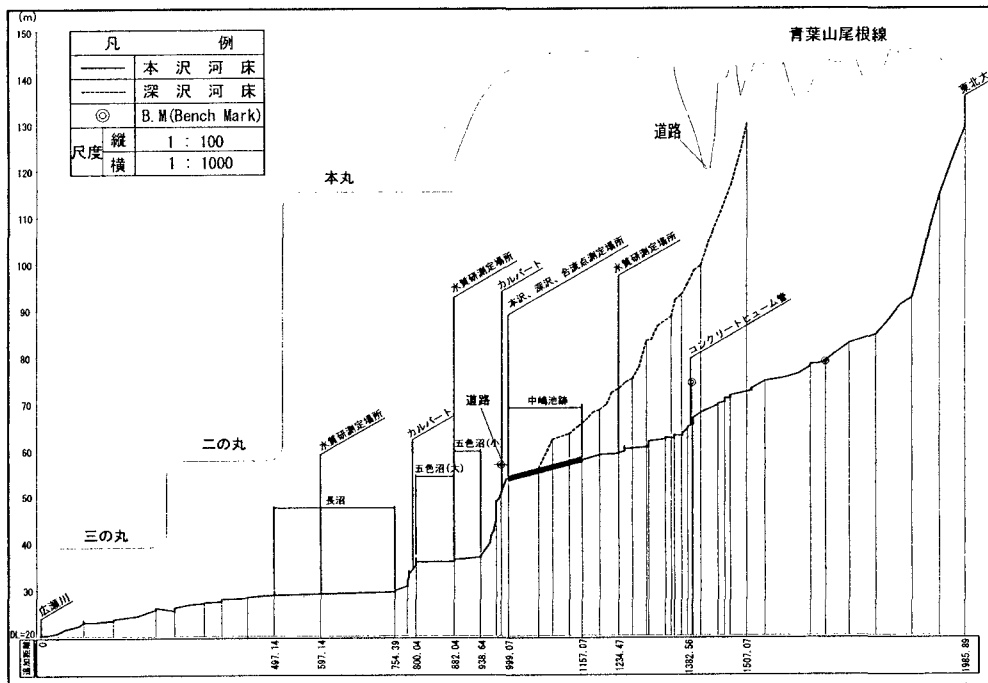


図一 2 測量対象地域

リットル/分

* 本沢の流量は最上台沢（仮称）の流水の一部を含む

現在までの地形図作成状況を図-2 に示す。表-1 は二の丸の中嶋池跡に流入する、深沢と本沢の流量測定で得られた年度別平均値である。中嶋池跡に流入する流量は、大きな変動もなく比較的安定していることが確認された。図-3 は、仙台城址の水利用に関わりが深い、諸施設の流路勾配を示す縦断面図である。この流路の実線全長はおよそ 1986m、合流点の広瀬川から本沢頂上までの平均勾配は約 6%、破線の深沢は 9.8%であった。



4:おわりに

はじめにも述べているように、仙台城の特徴は青葉山の自然地形を巧みに利用した防備性と灌漑技術であり、これらが評価されて今回の国史跡に指定されることになったものと思われる。今後国の史跡として質を高めていくには、地上の大手門や本丸懸造りなどの殿舎もさることながら、御裏林一帯の自然環境を最大限に象徴する中嶋池復元が、仙台城址保全のために大切なことと思われる。

謝辞:この調査は、本研究室四年生高橋弘康、千葉康裕両君の協力を得て行われたことを付記し謝辞にかえたい。